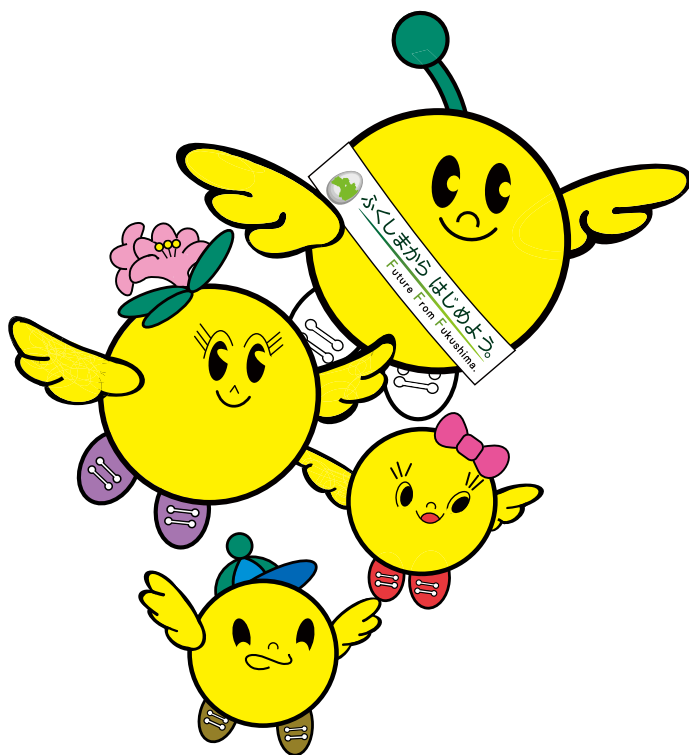


福島県東日本大震災子ども支援基金 事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
「ふくしまから はじめよう。キビタン」

福島県
〔令和元年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から8年余が経過いたしました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故後、前例のない困難な状況が続く中、今年4月には大熊町の一部の地域で避難指示が解除されました。帰還困難区域においても、特定復興再生拠点区域再生計画が認定されるなど、避難地域の復興へ向けた取組とともに、福島県の復興は着実に進んでおります。一方で、今なお多くの方々が避難生活を続けられており、風評と風化の2つの逆風など、原子力災害という重荷を背負った福島の復興はいまだ途上にあります。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

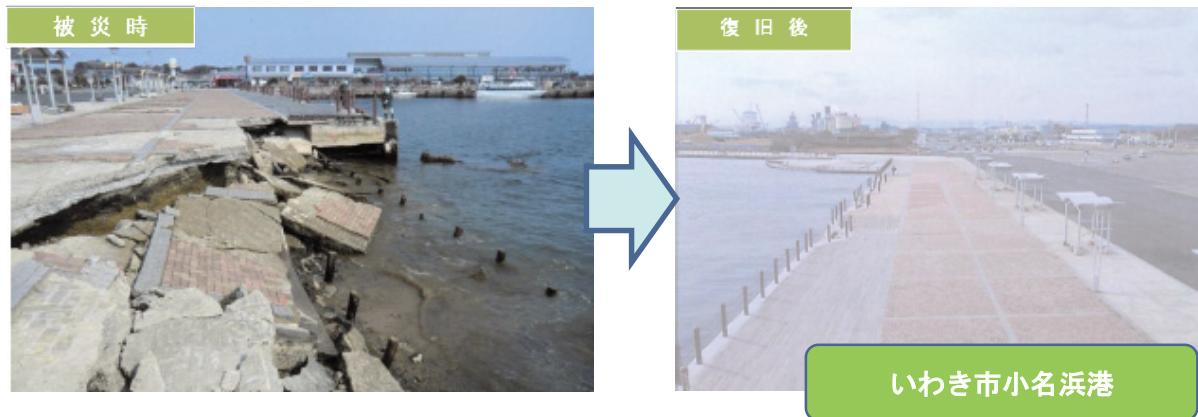
令和元年9月

福島県知事 内堀雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。



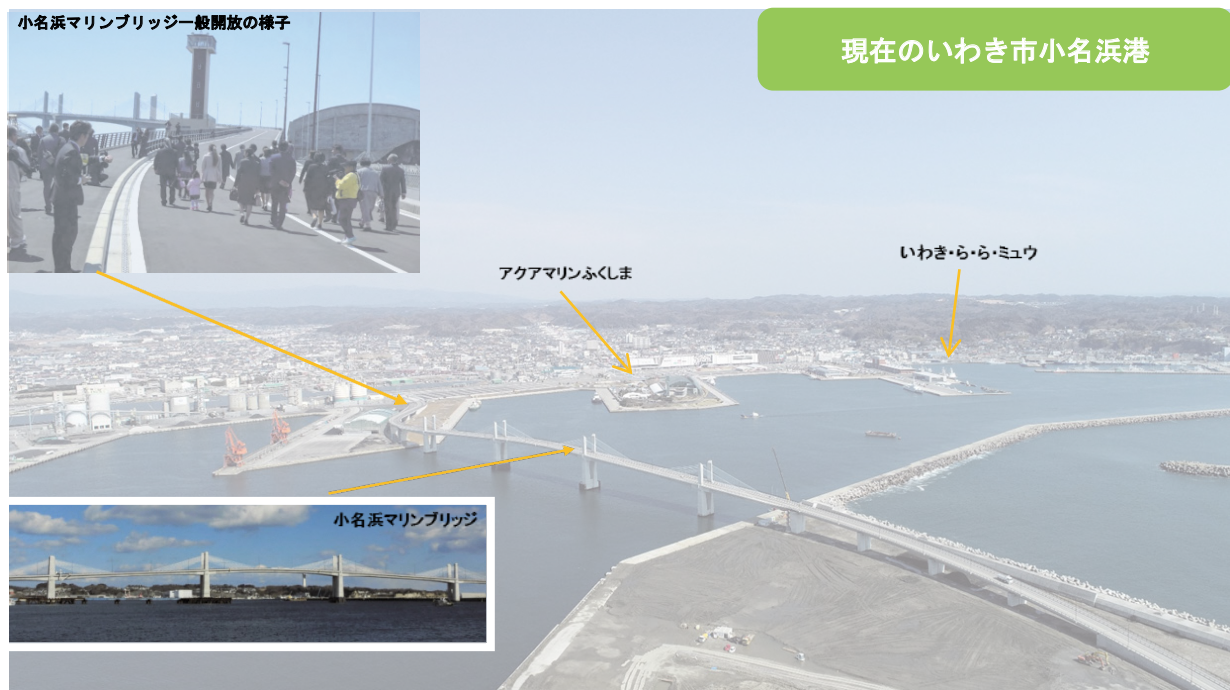
本県でも、東日本大震災により、多くの子どもたちが親を失いました。 加えて、原子力災害により、住み慣れた土地からも長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験により、幼い心に大きな負担がかかっています。

そして、震災から 8 年余りが経過し、国内外の多くの皆様からのお力添えにより、幹線道路や防潮堤などのインフラ整備、避難地域における特定復興再生拠点区域の整備、避難指示が解除された地域での学校の再開や商業施設の整備、東京電力福島第一原発の事故収束拠点となっていた Jヴィレッジの全面再開、福島イノベーション・コースト構想に係る拠点整備など、特に被害の大きかった県浜通り地域においても復興は着実に進んでおります。

一方でいまだに 4 万人を超える方々が避難生活を続けており、被災者の皆さんの生活再建、避難地域の復興・再生、廃炉・汚染水対策、県全体の産業振興、風評・風化の問題、更には急激な人口減少への対応など、本県は前例のない難しい課題を抱えております。

このような中、来年は東日本大震災からちょうど 10 年目の節目の年に本県でオリンピック 2 競技が開催されることになり、本県の子どもたちに大きな勇気を与えてくれるものと確信しております。

皆様からの善意の寄附をいただき、これまでも多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えております。

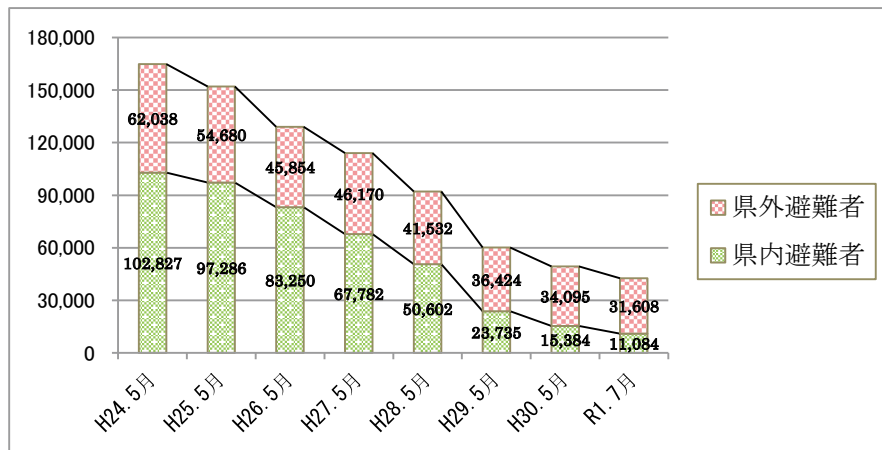


福島県の避難者の状況

避難者数は、平成24年5月をピークに減少を続けておりますが、令和元年7月時点で約4万人の方々が避難を続けています。

1 避難者の推移

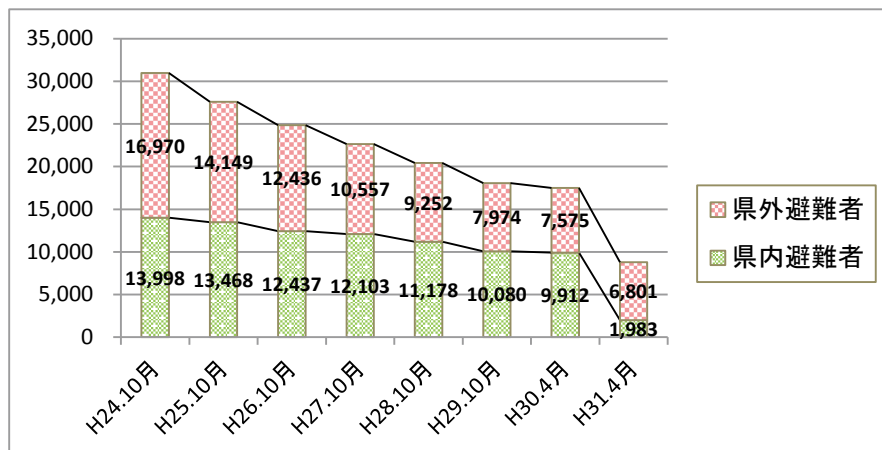
単位(人)



出典:福島県災害対策本部公表資料

2 子どもの避難者(18歳未満避難者)の状況

単位(人)



出典:福島県子ども・青少年政策課調べ

「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」について

福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」を開設しています。

○ 寄附の状況(平成31年3月31日現在)

寄附件数 17,030件 寄附額 6,226,424,134円

○ 被災孤児、遺児(平成31年3月31日現在)

- ・孤児: 24人(孤児:両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童)
- ・遺児: 178人(遺児:両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童)

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしまこども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

(1) 月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000円、遺児：20,000円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000円、遺児：30,000円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000円、遺児：40,000円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000円、遺児：50,000円）

(2) 一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000円
イ 小学校卒業時給付金	50,000円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000円
エ 高等学校卒業時給付金	300,000円

4 給付実績（平成31年3月31日現在）

給付実人員 167人 総給付額 545,940,000円

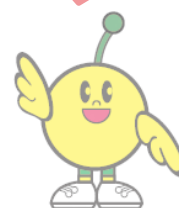
2 「ふくしまこども寄附金」による新たな支援について

平成24年12月県議会において福島県東日本大震災子ども支援基金条例の改正が議決され、震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を行っています。

【新たな支援の5つの視点】

- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- ② 子どもたちの将来につながる取組
- ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- ⑤ 子どもたちの本県復興への参画

次ページ以降で
紹介します





未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

1 事業概要

イノベーションコースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系トップ人材）を育成するため、次の3つの事業を実施しました。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（「算数・数学コンテスト」）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（「理科コンテスト」）
- ③ 未来を担うトップリーダー！先端技術体験

2 事業実施時期

- ① 平成30年10月21日（日）
- ② 平成30年8月8日（水）
- ③ 平成30年12月15日（土）～16日（日）

3 参加者数

- ① 1,423名（小学生827名、中学生596名）
- ② 108名（中学生36チーム108名）
- ③ 36名（小学生10名、中学生26名）

4 事業実施による効果

算数・数学、理科に関心がある児童生徒が論理的な思考力や科学的思考力を問う問題に挑戦する機会を通して、県内児童生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、問題解決力の育成に役立てることができました。

また、「算数・数学コンテスト」及び「理科コンテスト」の成績優秀者を対象に1泊2日で開催した「先端技術体験」により、将来の夢の実現に向けた第一歩を踏み出すとともに、学習意欲を向上させることができました。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課（TEL：024-521-7776）



今年は過去最高の参加人数を記録！ 県内の小・中学生1423名が参加しました！

平成30年10月21日回、今年で7回目となる算数・数学ジュニアオリンピックが、県内7会場で行われました。

参加者1423名は、初めて見る数や図形の世界をその場でイメージし、自分自身の力で正解への道を切り拓く、貴重な経験をしました。自由な発想でのびのびと算数・数学の世界を楽しんだ人もいれば、正解にたどり着かず悔しい思いをした人もいたようです。

このコンテストは、次年度も実施します。難題にも挑戦する勇気がある君！自分もつ知識と想像力をためてみませんか。そして、算数・数学の楽しさ・よさ・美しさを味わってみませんか。





ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

1 事業概要

被災した子ども・親たちに、本とのふれあいを通して心を癒し、親子のふれあいを深めるための読み聞かせ等を行うフェスティバルを開催しました。また、中高校生を対象にしたビブリオバトル福島県大会を通して、広く県民に対し子どもの読書活動についての理解の促進のための普及活動・啓発活動を実施しました。

2 事業実施時期及び参加者数

・親子ふれあい読書フェスティバル

平成30年8月6日（月） 70名

平成30年11月4日（日） 72名

・ビブリオバトル福島県大会

平成30年11月17日（土）

中学生11名、高校生6名



3 事業実施による効果

避難住民と受け入れている側の住民が、本や絵本を通して交流する機会を得たことで、お互いに理解を深め、今後も助け合って生活できるような関係が築かれ地域コミュニティの再生にもつながりました。また、講師や読書ボランティアによるお話し会やブックトーク等の実施により、子どもたちがたくさんの本に触れる機会となりました。

さらに、ビブリオバトルを通じて中高校生の読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上が図られ、読書の大切さを参加者全員で共有しました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）





ジャーナリストスクール開催事業

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興、文化、スポーツ等の分野で活躍している個人、団体に対して取材し、新聞としてまとめ、情報を発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会を設けました。

2 事業実施時期

平成30年7月31日（火）～8月2日（木）

3 参加者数

小学生25名、中学生6名、高校生2名
新聞発表会参観者 70名



4 事業実施による効果

子どもたちが作成した新聞を県内外の避難者の方々に配布することにより、「ふくしまの今」や現状を知らせることができた。また、新聞を福島県内の小・中・高・特別支援学校に配布し、学習の資料等として活用できた。

さらに、子どもたちはそれぞれ課題を持って取材し、自分の考えや思いを表現する新聞づくりをとおして、福島県の現状を知り、「福島は今、良さ」を知り、未来の「ふくしまの復興」を担う子どもたちの育成を十分に図ることができた。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 (TEL: 024-521-7404)





未来へチャレンジ！ふくしまスポーツ塾

1 事業概要

スポーツに対する意欲や関心が低い、又は運動が苦手
で本格的なスポーツ体験等への参加に抵抗を抱く子ども
たちに対し、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを伝
える機会を提供しました。



2 実施時期及び参加者数

スポーツクライミング教室

平成30年6月10日（日）59名、24日（日）58名

スカイスports教室

平成30年10月14日（日）487名

テニス教室・車いすテニス教室

平成30年10月28日（日）70名

スケートボード教室

平成30年11月25日（日）41名



3 事業実施による効果

世界や国内、本県で活躍するトップアスリート等からスポーツの楽しさやこれまでの
経験を伝えてもらうことにより、子どもたちの将来の自分づくりに向けた夢や希望を育
むことができました。また、障がい者を対象とした車いすテニス教室を実施したこと
により、健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しむ機会を提供することができました。

2 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 スポーツ課

(TEL: 024-521-7995)



ふくしまの未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業

1 事業概要

学校が教育活動の一環として実施する海外ホームステイ研修に参加するため、県内の県立・私立高校生及び海外より招へいする海外高校生に対して参加経費の一部を支援しました。

また、研修の成果等を発表してもらうため、教育委員会主催の英語プレゼンテーションコンテストを実施しました。

2 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）

児童養護施設等入所児童自立支援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育ち、経済的な支援が得られない子どもたちについて、就職する際に必要な普通自動車運転免許取得の費用を補助し、子どもたちの自立のための支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-7176）

未来に進もう！こどもの夢応援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育った子どもたちについて、経済的な理由により進学をあきらめることのないよう、進学やその後の生活に必要な費用の一部を給付金として給付し、希望する夢をかなえるための進路選択ができるよう支援しました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-7176）

寄附をくださった皆様へのメッセージ

給付金をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附のおかげで、勉強しやすい環境で、勉強することができています。第1希望の大学に入って、将来地域に貢献したいと思っております。

学校 小学校・中学校 高校 その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附をして下さったみな様いつも温かい支え人ありがとうございます。みな様からの支えを受けて夢中になっているドッチボールのチームに入って順番に本格的な練習がはかばかしています。来年は中学生になります。みな様の支えを利用していただき、中学校の準備やまた野球をやりたいと思っているのでその道具をそろえる費用に使わせていただき本当に感謝します。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 6 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも支援をしていただき、ありがとうございます。おかげで、毎日を楽しく快適に生活することができています。これからも毎日、勉強や部活に一生懸命取り組むので、ご支援よろしくお願い致します。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

ご支援いただきありがとうございます。部活も引退したので、勉強をがんばりたいと思います。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもありがとうございます。
お陰様で日々頑張ることが
できています。応援して頂き
感謝の気持ちでいっぱいです。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災時、6才だった僕も中学生です。
中学生生活も最後になりました。
部活も水泳部だったので
8月いっぱいまで終わりました。
これからは、高校受験に向けての
勉強を頑張ろうと思っています。
いつもありがとう ございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも、御支援 本当に
ありがとうございます。
皆様からの御支援のおかげ
で私たちが、これまでやってこれ
と感謝しています。
本当にありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

8年が過ぎ、息子は、今年で
18才になります。中学生から高校生
へと、多感な年頃のため、先に旅立
てしまった父親である夫をうんでし
まう時期もありました。
今年、息子は、大学を受験します。
自分で決めた道へ進んでいけるよう、
夫の分まで支えていきます。
いつもいつも、支援していただいている事
を有難く思っております。
いつか、恩返ししたいと思っております。

学校 小学校・中学校・高校・その他(保護者)
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

今年から社会人となり、新しい生活になりました。
今まで、多大なるご厚志をありがとうございます。
これから一人前になるよう精進していきたいと思います。

学校 小学校・中学校・高校・その他(会社員)
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)



学校 小学校・中学校・(高校)・その他()
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

一日一日をしっかりと生きていくこと大切にしていきます。

寄附をして下さった方への感謝の気持ちを、この上のおカードをつづいてお伝えできるとうれしく思います。

次は、私や子どもが困っている方の助けにはなるよう、心構えをしたいと思います。

(母)

学校 (小学校)・中学校・高校・その他()
学年 2年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

拝啓
朝・夕に杖の気配を感じぬ日子
日々です。日頃より多大なるご支援を
賜り誠にありがとうございます。
お陰様で子どもが新校生活に慣れ
楽しく学校生活を送っております。
将来に向け、どんな仕事に付きたいか、
色々模索しながら、健康を第一に
充実した新校生活を過ごしてほしいと
思っております。

めしこ

学校 小学校・中学校・(高校)・その他()
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

毎日 楽しい学校生活を
送っています。絵を描くこと
が大好きです。
たくさんの御支援ありがとう
ございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

ご支援していただいた方々に
感謝しております。
高校生活も充実した活動をして
います。
これから少しでも恩返しをする
ことができると思っています。
貢献することができるよう頑張ります。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附皆様へ
いつもありがとうございます。みな
さまの力で子供たち無事学校
の戻り強と部活できました。
今年の4月上の子(男子)は大学
生活始めまして夏休み期間
2週間くらいバイト(生活
費のため)と社会体験
下の子(女子)高校入学して
2人とも新しい学校生活薬に
巧感謝(気持ち)持ち忘れな
うに子供たち頑張ります。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援ありがとうございます。
これからの今後の程よろしく
お願いいたします。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。



ふくしまから
はじめよう。

令和元年9月発行

福島県 子ども未来局 子ども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ

[ふくしま子ども寄附金](#)

[検索](#)